

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	265人	社会	266人	数学	266人
	理科	265人	英語	264人		

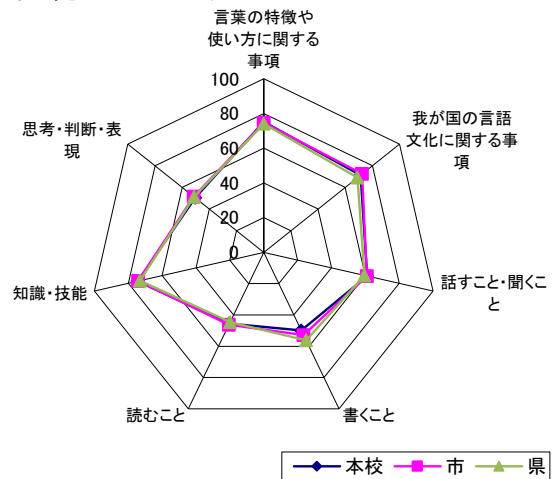
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.2	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	71.3	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	61.1	60.9	59.5
	書くこと	49.9	52.8	56.2
	読むこと	45.6	46.2	44.5
観点	知識・技能	74.4	74.2	73.1
	思考・判断・表現	50.5	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

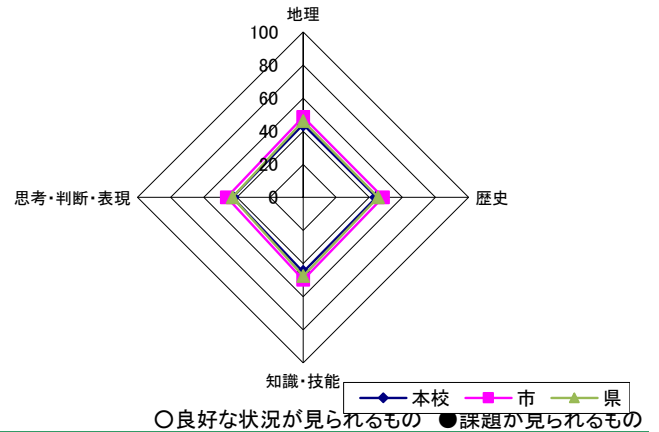
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は市、県ともに平均を上回っている。 ○文節と文節の関係を正しく理解し、設問と同じ関係を選ぶことができている。 ●漢字の読み書き、特に書き問題に対しては正答率が低い。 ●敬語表現になじみがなく、正しく使えていない。</p>	<p>・日本語を正しく使うために表現を豊かにする知識を身に付け、社会でも生かせるような言葉遣いを学ぶ授業を展開する。 ・漢字の読み書きの定着を徹底し、作文やテストなどで漢字を使うように指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は市に対しては1.2ポイント下回り、県に対しては2.2ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いや行書の点画などの特徴を概ね正しく理解している。</p>	<p>・古典文学などへの導入を工夫し、生徒に興味・関心をもてる話題を取り入れる。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市、県ともに平均を上回っている。 ○話し合いの内容を正しく理解し、話し方の工夫や、話し合いの際の進め方がよく理解できている。 ●話の前後から結論をまとめることが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・話し合いや、発表を聞く際にはメモを取るなどして、重要な情報を聞き逃さないようにし、最後に整理できるようなワークシートを作成し、生徒の思考の一助となるようなものを取り入れて指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は市、ともに平均を下回っている。 ○平均正答率を下回ってはいるが、半数近くの生徒が正答することができている。 ●自分の考えを文章にすることが苦手で、その根拠を説明することに課題がある。また、段落構成の理解にも課題がある。</p>	<p>・作文指導において、いきなり文章を書くことからではなく、自分の考えをまとめる段階からスタートし、それをつなぎ合わせる作業を取り入れることで、段階的に思考を整理、表現できるようにする。 ・段落や原稿用紙の使い方などを一覧にして随時確認させる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市に対しては0.6ポイント下回り、県に対しては1.1ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができる。 ●「段落ごとの内容を捉え、適する段落の番号を選んで書く。」問題では、全体の2割ほどしか正答できず、文章の構成や展開を読み取ることができていない。 ●登場人物の心情の変化を読み取ることができず、表現や時系列の変化に気付くことが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・登場人物の行動や表情の変化を通して、それぞれがどのような感情由来のものなのかを考えたり、当てはめたりするような活動を取り入れ、相手の心情を理解できるように指導を行う。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	44.1	48.6	46.2
	歴史	44.3	48.3	45.3
観点	知識・技能	45.1	49.8	47.5
	思考・判断・表現	42.6	46.1	42.7



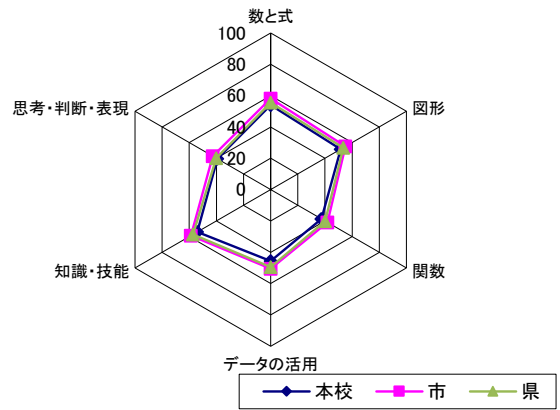
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同じで、市平均よりも3.3ポイント低い。</p> <p>○日本の固有の領土と、領土をめぐる問題について考察する問題では、県の平均正答率より1.1ポイント高く、日本の領域についての理解が深まっている。</p> <p>○地図上に示される赤道の位置についての理解を基にした読み取りが県の平均値正答率より1.0ポイント高く、普段の授業において、地図帳を意識的に活用した成果であると考えられる。</p> <p>●アメリカ合衆国の気候と農業分布の関係について、複数資料を基にした考察は、県の平均正答率より5.8ポイント低い。</p> <p>●ヨーロッパ州で見られる特徴的な地形についての理解を基にした読み取りは県の平均正答率より4.2ポイント低い。</p>	<p>・今後も授業における複数資料の読み取りや、課題に対する考えのまとめ、協働的な学びを取り入れ、理解を図れるようにする。</p> <p>・世界の諸地域の学習では、写真資料や映像資料を用い、より実際の様子を感じられるように工夫する。</p> <p>・雨温図を基にした世界各地の気候の特色のまとめを行い、雨温図からどのような特徴があるかを判断できるようにする。</p>
歴史	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同じで、市平均よりも4.0ポイント低い。</p> <p>○資料を基に「弥生時代のムラのようす」について考察し、表現する問題は、県の平均正答率より7.0ポイント、市の平均正答率より1.1ポイント高い。</p> <p>○律令制下の、重い負担に対する農民の行動を資料から読み取る問題は、県平均正答率より7.4ポイント高い。</p> <p>○鎌倉時代に新しい仏教が広まった理由について、複数の資料を関連付けて考察する問題は県平均正答率より2.0ポイント高い。</p> <p>●律令政治の時代に出された法令の名称を答える問題では市平均正答率より6.9ポイント、県平均正答率より3.1ポイント低い。</p> <p>●武士が台頭してきた時代のできごとについて答える問題では市平均正答率より3.7ポイント、県平均正答率より1.9ポイント低い。</p>	<p>・高い平均正答率よりを示した問題は、いずれも「思考力・判断力・表現力」を問う問題であり、資料読み取りや考えを記述する力が身に付いてきていると考えられる。今後も資料を読み取る、複数の資料を関連付けて考えさせる学習活動を毎時間取り入れていく。</p> <p>・授業における理解はあるものの、知識が定着できていないことが考えられる。授業中に小テストを実施するなど、意図的に反復学習の機会を設けていく。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.0	58.2	55.5
	図形	51.6	55.1	53.5
	関数	37.4	41.9	40.2
	データの活用	45.6	50.5	49.4
観点	知識・技能	54.1	58.8	57.3
	思考・判断・表現	39.3	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

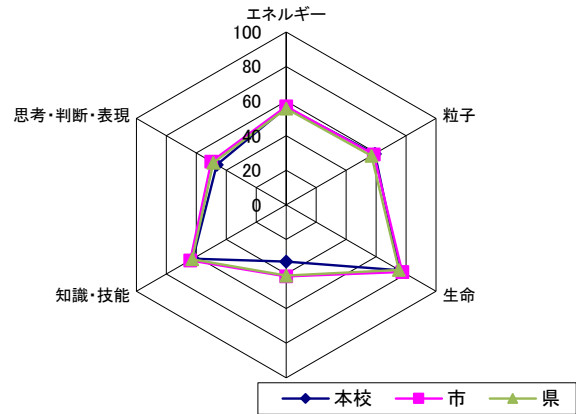
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>本校の平均正答率は、県の正答率より2.3ポイント、市の正答率よりも4.2ポイント低い。</p> <p>○四則の混じった計算や1次方程式の基本的な問題は概ね理解していると考えられる。移項を必要としない1次方程式の問題では、県の正答率よりも6.7ポイント、市の正答率よりも4.0ポイント高い。</p> <p>●1次方程式を立式する文章問題の正答率が、県の正答率と比べ1.8ポイント、市の正答率と比べ8.6ポイント低い。</p>	<p>・1次方程式の利用において、文章を読んで、それに基づき立式するところに課題がみられる。授業では、連立方程式の利用の場面など、方程式の利用の内容で、練習問題に取り組む機会を十分に設けながら、補助教材や単元テスト等を利用し、細かく指導していきたい。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、県の正答率よりも1.9ポイント、市の正答率よりも3.5ポイント低い。</p> <p>○半径が等しいおうぎ形と円の弧の長さについての問題の正答率が、県の正答率よりも7.2ポイント、市の正答率よりも3.9ポイント高い。</p> <p>●垂線の性質を理解し、作図する問題の正答率が、県の正答率と比べ12.9ポイント、市の正答率と比べ14.3ポイント低い。</p>	<p>・垂直二等分線や角の二等分線など、基本的な作図の仕方については概ね身に付いていると考えられるが、作図の理解に課題があると考えられるため、図形分野の単元において、作図を利用した授業の展開をしていく。</p>
関数	<p>本校の平均正答率は、県の正答率よりも2.8ポイント、市の正答率よりも4.5ポイント低い。</p> <p>●与えられたグラフから速さを求める問題の正答率が、県の正答率と比べ6.5ポイント、市の正答率と比べ7.6ポイント低い。</p> <p>●与えられた表をもとに、グラフをかく問題の正答率が、県の正答率と比べ4.9ポイント、市の正答率と比べ6.5ポイント低い。</p>	<p>・用語の意味や性質をしっかりと理解させる必要がある。1次関数の授業において、式と表とグラフの関係について、理解が深められるよう丁寧に説明する。そこから、比例・反比例について振り返りができるような機会を設ける。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、県の正答率よりも3.8ポイント、市の正答率よりも4.8ポイント低い。</p> <p>●累積度数を求める問題の正答率が、県の正答率と比べ5.9ポイント、市の正答率と比べ6.7ポイント低い。</p> <p>●ヒストグラムの階級の幅について理解しているかをみる問題の正答率が、県の正答率と比べ6.7ポイント、市の正答率と比べ5.5ポイント低い。</p>	<p>・確率の授業において、相対度数について復習するなど、1年次の学習内容をもう一度確認する。また、求め方だけでなく、その値の持つ意味を理解させる。また、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	56.4	57.0	55.7
	粒子	59.2	58.6	56.9
	生命	75.6	77.5	75.2
	地球	32.8	41.4	40.9
観点	知識・技能	62.3	64.1	62.8
	思考・判断・表現	46.4	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

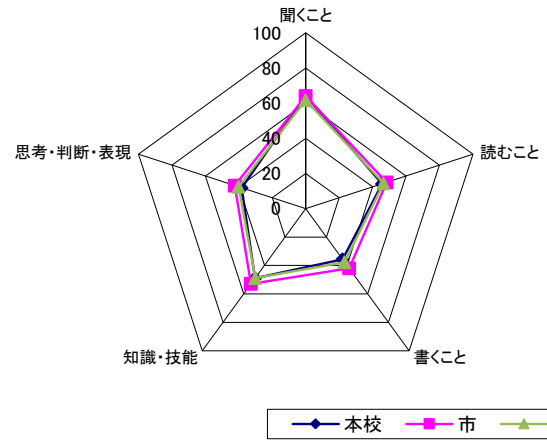
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりは0.7ポイント高く、市の平均よりも0.6ポイント低い。</p> <p>○音の速さを使って音源までの距離を求める問題では、県平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>●光の反射の道すじを作図する問題では、県平均を2.3ポイント下回っている。</p>	<p>・音の単元については、計算問題も含まれたが、正解率は高かった。</p> <p>・光の単元、力の単元については、どの問題も正答率が市や県平均よりも低く、苦手な生徒の多い分野といえる。</p> <p>・単元によって得意・不得意がはっきりしている傾向があるため、普段の授業から、生徒の様子をよく見て苦手単元の克服に力を入れたい。</p>
粒子	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.3ポイント、市の平均よりも0.6ポイント高い。</p> <p>○酸素を発生させる方法を選ぶ問題では、県平均を12.7ポイント上回っている。</p> <p>●水溶液の温度を下げて結晶がほとんど現れない理由を答える問題では、県平均を6.4ポイント下回っている。</p>	<p>・気体の性質の単元については、どの問題も市や県の平均を上回っており、よく理解している様子が見られる。</p> <p>・考える問題や記述式の問題の正答率が伸び悩んでいることを念頭に置き、思考力・判断力・表現力の向上を図る授業を展開したい。</p>
生命	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりは0.4ポイント高く、市の平均よりも1.9ポイント低い。</p> <p>○単子葉類に分類される植物を選ぶ問題では、県平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>●ライオンとシマウマの犬歯を選び、ライオンの犬歯が獲物をとらえることに適していることを答える問題では、県平均を5.2ポイント下回っている。</p>	<p>・比較的単純な選択形式や短答形式の問題では正答率が高かった。</p> <p>・左記のライオンの問題等、記述形式の問題は正答率が低い傾向が見られる。</p> <p>・判断する問題や記述形式の問題の正答率が伸び悩んでいることを念頭に置き、思考力・判断力・表現力の向上を図る授業を展開したい。</p>
地球	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも8.1ポイント、市の平均よりも8.6ポイント下回っている。</p> <p>●地球分野のすべての問題で、県平均を下回っている。</p> <p>●地震のゆれの名称と震度の階級の組み合わせを選ぶ問題では、県平均を13.6ポイント下回っている。</p>	<p>・単純な知識問題も含め、すべての問題で正答率が低い現状があり、本校生徒にとって明らかな苦手分野となっている。</p> <p>・学年末に履修する分野ということで気が抜けてしまわないよう、学習に対するモチベーションを維持するとともに、基本的なことから丁寧に指導することで、多くの生徒がもつ苦手意識を払しょくしていくことが必要である。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.2	64.0	61.6
	読むこと	45.7	48.4	46.6
	書くこと	35.6	42.0	37.8
観点	知識・技能	49.0	52.9	48.9
	思考・判断・表現	38.3	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりは2.6ポイント高く、市の平均よりも0.2ポイント高い。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、県平均を6.0ポイント上回っている。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ問題では、県平均を0.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業内でのクラスルーム・イングリッシュの使用頻度を高めることで、生徒が英語を聞く機会を増やしていく。 英文を聞き、概要を捉えたり必要な情報を把握するような場面を増やしていく。
読むこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりは0.9ポイント低く、市の平均よりも2.7ポイント低い。</p> <p>○対話から必要な情報を読み取り、適切な日付を選ぶ問題では、県平均を2.7ポイント上回っている。</p> <p>●英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ問題では、県平均を4.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の会話活動を通じて、語形や語法の知識・理解を定着させる。 本文や単元ごとの単語テストを実施し、語彙の定着を図る。 語形や語法の知識を定着させた上で、まとまった英文から必要な情報や内容を読み取る練習機会を増やす。
書くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりは0.9ポイント低く、市の平均よりも2.7ポイント低い。</p> <p>○be動詞(is)の過去形を的確に捉えることができるかどうかをみる問題では、県平均を10.6ポイント上回っている。</p> <p>●疑問詞(which)を正確に書くことができるかどうかをみる問題では、県平均を4.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい語形や語順を身に付けさせた上で、簡単なトピックについて表現する(話す・書く)機会を授業内で多く設ける。 書くことに苦手意識を感じている生徒が多いため、授業で積極的に英文を書く活動を取り入れる。

宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」の質問に対して、「はい」と回答した割合が、75.8%と県平均を5.4ポイント上回っている。「授業を集中して受けている。」の質問では、57.3%で県平均を6.4ポイント上回っている。学習に対して真面目に取り組んでいると考えられる。

●しかしながら、「家で、予習・復習している。」「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」「家で、(学校・塾の宿題以外の)自分で考えた勉強をしている。」などの質問に対して、「はい」と回答した割合が、県平均を下回っている。また、「勉強していて不思議だな・なぜだろうと感ずることがある。」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」などの質問に対して、「はい」と回答した割合も、県平均を下回っている。このことから、学習に関して、与えられたことは一生懸命に取り組むが、知的好奇心をもったり、自ら疑問点を解決したりするなどの、学ぶ楽しさを実感できていないと考えられる。宇都宮モデルの「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識して、生徒が自ら考え、分かる楽しさを実感させる授業を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるように今後とも取り組みたい。また、家庭学習の意義や方法についても、学校全体で今後とも取り組んでいく。

○「将来の夢や目標をもっている。」の質問に対して、「はい」と回答した割合が、50.2%と県平均を2.9ポイント上回っている。12月に行われる社会体験学習を通して、働くことの大切さと意義を実感するとともに、働くことと学ぶことを関連付けさせたい。また、夢や目標を叶えるためにも、自ら進んで学習に励むことの大切さを感じ取ってほしいと願っている。

●「誰に対しても、思いやりの心をもって接している。」の質問に対して、「はい」と回答した割合が、県平均を3.4ポイント下回り、「いいえ」の回答が県平均を3.5ポイント上回っている。今後とも道徳の授業で思いやりの心を醸成するとともに、思いやりのある言動に対しては称賛し、不適切な言動に対しては指導し改善を促す。数値だけを見ると改善を要する項目であるが、正直に回答し客観的に自分を見つめているともいえるかもしれない。いずれにしても、生徒が思いやりの心がもてるように、学校の教育活動全般を通して全職員であたりたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学习ノート」の運用と適切な学習課題の提示による家庭学習の充実 ・AIDリル、学校図書室の活用 ・ティームティーチングによる効果的な指導法の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家で、自分で計画を立てて勉強している。」の肯定的回答の割合が、県平均を2.1ポイント下回っている。 ・「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答の割合が、県平均を0.8ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・問題形式において、特に「記述式」の正答率が、全教科で市平均を下回っている。県平均を上回っているのは社会のみである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、書く力の充実に重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、自分の考えをまとめ、「記述」する活動と、言葉で人に伝える「説明や話し合い」活動を重視し、相互に関連付けたり、考えを整理したりできるようにさせる。 ・振り返りでは、書くための時間を確保するとともに、書き方の指導も行っていく。